20141005

戦闘尼僧の淫靡な冒険記
【外伝】
淫魔王女・触獣の巣窟
《抄録》

=AOI=

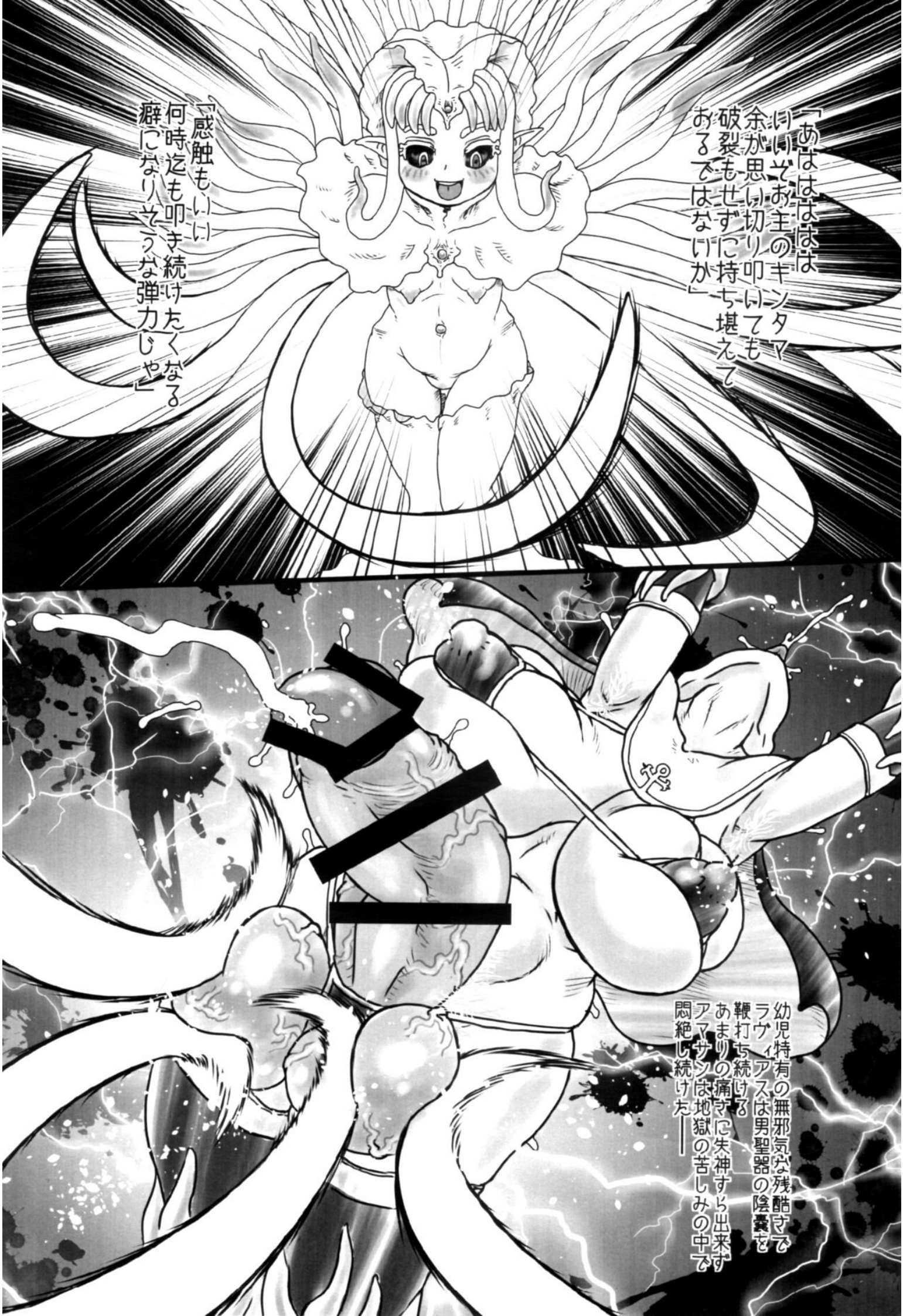
聖拾字教会の
武装僧兵部隊が
辺境のとある街付近で
消息を絶った
アマサンは
教会法具部が開発した
新型聖法衣の
テストを兼ねて調査に
向かった――
武装僧兵部隊は
街の女子供を攫って行く
怪物を退治するべく棲家と
思しき洞窟へ入り
そのまま帰って来なかった
と言う――
部隊を追って洞窟に入った
アマサンは触手の群れに捕まり
体の自由を奪われた！

「また新しい玩具が来たようじゃな」
幼い声と共に洞窟の奥から現れたのは
体の至る所から触手を生やした異形の美少女
体表は性器の粘膜の如き質感と色彩を纏い
脳髄を痺れさせる様な淫らな香りを
全身から発している――
それがこの洞窟の主…
全世界の敵である淫魔王の娘
淫魔王女ラヴィアスだった――
「お主はどれくらいの間
余を愉しませてくれるのじゃ？」

幼いとは言え流石は淫魔王の娘…
ラヴィアスに流れる血は伊達ではなく
強力な媚薬作用のある彼女の体臭は
絶え間なく脳髄を蕩けさせ
極上の膣肉を思わせる粘膜質の掌と指で
男聖器を弄び続ける
第一級戦闘尼僧であるアマサンでさえ
正気を保つのがやっとだった

「前に来た男共は余がこうしてチンポに触れただけで射精が止まらず残らず悶死しおった…お主はそんなヤワなチンポでなくて嬉しいぞこれは存分に楽しめそうじゃ」
ラヴィアスがそう言った
次の瞬間――

ラヴィアスの触手が男聖器の陰嚢部を鞭打った
男聖器は神聖力よって形成される戦闘器官であり
敵の攻撃を受け止め無力化する働きがある
しかし淫魔王女の桁違いの魔力が籠もった触手は
人間如きの浅知恵を嘲笑うかの様に
その小賢しい防御作用を易易と打ち破った
経験した事の無い爆発的激痛に呼吸も出来ず悶絶する
アマサン――


「あはははは
にいさお主のキンタマ
余が思い切り叩いても
破裂もせずに持ち堪え
おるではないか」
「感触もいい
何時迄も叩き続けたくなる
癖になりそうな弾力じゃ」
幼児特有の無邪気な残酷さで
ラヴィアスは男聖器の陰嚢を
鞭打ち続ける
あまりの痛さに失神すら出来ず
アマゾンは地獄の苦しみの中で
悶絶し続けた――

「キンタマ叩きも
愉しいがそろそろ
お主の淫穴を味わせて
貰うとしよう」
ラヴィアスの少女のいた
股間の秘裂がパックリ開き
先端が亀頭状をした
女性の腕程の太さの
長い触手が何本も
這い出てきた
それは獲物を狙う
大蛇の群れを彷彿と
させた

体中の穴を触手に蹂躙され
想像を絶する苦痛と
それに匹敵する快感が
アマサンの脳神経と魂を
陵辱していく――

すいません、作業時間がいっぱいいっぱいになって
しまいました。
コピー誌なのにオチまで行かないとは申し訳ない。
そして描きかけラフでお茶を濁す体たらくっぷり・・・。orz

淫魔王女
ラヴィアス

…の覚書
の様なもの

後程
生8ヶ月
し かし間の
人 歳位の
11 じ
感

中はいが
編えないとは
本見ちゃんの下す
脇存在

マ〇コやしき
肛門らしあるが
器官はからこ
ここ〇ポ触手が
チ何本も出て来る

ケツと言うか
下半身がデカい

母上様の
淫魔王ヴァギナウス様
単性生殖ではなく
人間の女性とのSEXで
ラヴィアスを妊娠
出産した

＝あとがき＝

まず予告の夏コミの続きを出せなくてすいませんでした。
以下、言い訳、泣き言、愚痴です、申し訳ない。
今年とうとう生まれて半世紀になってしまいました。
その所為で体力・気力が著しく低下しております。
実家の農作業を手伝った疲れが抜けず9月の半分ぐらいを
棒に振ってしまいました。
農作業の疲れも抜けたので
これから2ヶ月冬コミに向けて今度こそは
夏コミの続きを描こうと思っておりますが
万が一の場合にご容赦下さい。
…その前に冬コミ受かってるかどうかですが。
ここ数年どっちか必ず落ちるんですよねぇ。
まあ先の事をあまりあれこれ心配しても仕方ないですし。
なるようにしかなりません。
それでは冬コミに受かっていれば年末有明で
またお会いいたしましょう。
ダメだったらふたけっと11で。
ごきげんよう～。

2014年10月05日　　魔北葵　拝

＝奥付＝

［発行日］
2014年10月05日(日)
［発行者］
ＡＯＩ
［連絡先］
aoi0makita@gmail.com